資料8

かわさき　みどりの共創プロジェクト２０２３
～概要～

川崎市市制１００周年記念事業・
全国都市緑化かわさきフェア実行委員会事務局

COLORS, FUTURE! ACTIONS
KAWASAKI 100th

１．かわさきフェアの背景と目的

川崎市は、令和６（2024）年７月に市制100周年を迎えます。

豊富な水資源を背景に、臨海部を中心に工業が発展するとともに、徐々に北部に向かって都市が開発がされ、多くの樹林地が失われましたが、それと引き換えに利便性の高い都市が生まれてきました。

今、川崎市では、環境先進都市として持続的な発展を目指し、積極的にSDGsの達成や脱炭素社会の実現に寄与する取組を進めています。

また、近年では社会状況や市民のライフスタイルの変化に伴い、暮らしの中にみどりを取り入れる動きが広がるなど、みどりの価値が大きく見直されています。これまでの川崎の100年を振り返り、これからの川崎をどのようなまちにしていくのか？川崎だからできることって何なのか？

そして、みどりが持つ力を使って、川崎らしく、次の100年により豊かな環境をどうつないでいくのか？

みどりの共創プロジェクトでは、こうした川崎のみどりの歴史、資源、強みなどを活かし、改めてみどりについて市民の皆さまと一緒に考え行動することで、川崎の新たなみどりの文化を醸成し、誰もが住み続けたいまちへとつなげていく、そのための大きなチャンスであると考えます。

高度に都市化が進んだ川崎市で開催することで、“川崎らしいみどり”を全国に向けて発信していきます。

＜かわさきフェア開催の意義＞

1　市民が暮らしの中で、積極的にみどりを取り入れるためのきっかけをつくること

2　みどりに関する機運を高め、市民の行動につなげていく契機とすること

3　市民の行動が新しい川崎のみどりの文化を育み、誰もが住み続けたいまちにつなげていくこと

2．みどりのまちづくりに向けて

緑には、環境保全、レクリエーション、防災、景観形成などの主要な機能や効果がある他、自然環境教育、中心市街地活性化、観光、産業振興、健康福祉、子育て・情報交換等の場としての多様なポテンシャルがあります。

多発する自然災害や新型コロナウイルス感染症の影響など社会状況が大きく変化する中で、緑とオープンスペースにおいては、従来のコミュニティ活動の場やグリーンインフラ、人々のストレス緩和や運動不足の解消など健康的に過ごせる場としてだけでなく、テレワーカーの作業場所やフィットネス利用、キッチンカーの配置による賑わいの創出など、利用形態の多様化や柔軟な活用に対するニーズが高まっています。

こうしたことから、緑を取り巻く社会状況の変化や市民ニーズの多様化に柔軟に対応しながら、緑の機能を十分に発揮させるとともに、その多様な効果を実感できるようにする必要があります。

かわさきフェアでは、生物多様性がもたらす水や空気の浄化、食料や資源の供給、暑熱化の緩和、人々の心を豊かにして安心感をもたらすといった、多様な機能と効果を含めて「みどり」として捉えています。

みどりが持つ多様なポテンシャルを、川崎の共有の財産として認識するとともに、みどりが持つポテンシャルを最大限に活用して、みどりの多様な効果が実感でき、人々が暮らしやすく住み続けたいまちとするため、市民や企業、行政などの多様な主体が将来像を共有しながら、みどりのまちづくりに取り組んでいくことが重要です。

みどりのまちづくりに取り組むにあたっては、一人ひとりが持続可能なまちづくりなどのSDGｓの趣旨を十分に理解しつつ、目指すべき将来像を描きながら取組を進める必要があります。

また、市民や企業、団体など多様な主体との連携を図りながら、経済・社会・環境の三側面の調和や統合的な向上を目指した取組を推進することが重要です。

2． みどりのまちづくりに向けて

●取組姿勢・目指すべき将来像

将来像

みどりでつなげる、暮らしやすく住み続けたいまち

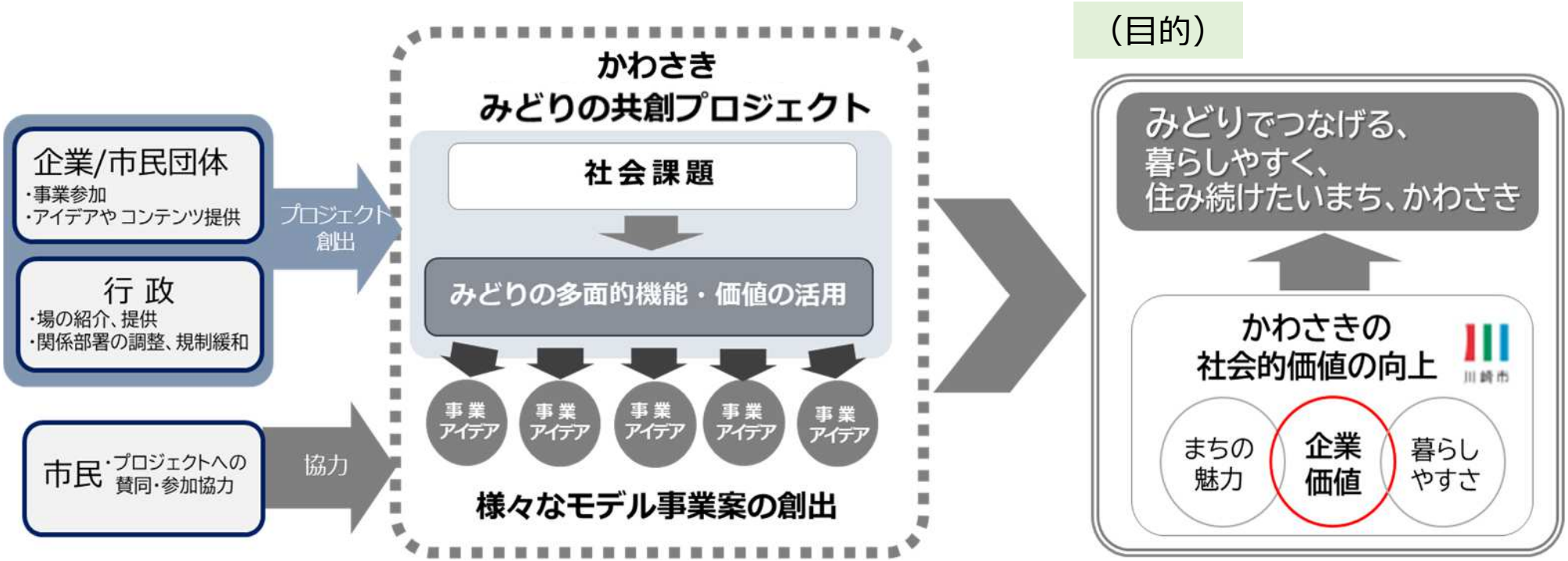
昨今の社会状況の変化等を踏まえ、かわさきフェアを契機として、みどりが持つポテンシャルを最大限に活用して、ウェルビーイング※を実現し、住み続けたいと思い続けられるようなまちをつくるため、目指すべき将来像を設定します。その将来像の実現を目指し、かわさきフェア開催以降にもつながる様々な取組を、かわさきフェア開催前から展開していきます。

※ウェルビーイング
現代的ソーシャルサービス(社会福祉事業)の達成目標として、個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念。昭和21（1946）年の世界保健機関（WHO）憲章草案において、「健康」を定義する記述の中で「良好な状態（well-being）」として用いられた。最低限度の生活保障のサービスだけでなく、人間的に豊かな生活の実現を支援し、人権を保障するための多様なソーシャルサービスで達成される。（出典：「知恵蔵」(株)朝日新聞出版発行）

3． みどりの共創プロジェクトの概要

「みどりでつなげる暮らしやすく、住み続けたいまち、かわさき」を目的に、
新たな100年に向けて、文化として根付くムーブメントとなる取組を行う。

共創プロジェクトの目的とプロセス



- 多様な主体が、互いの知見を持ち寄ることで生み出される、**柔軟な発想をもとにしたこれまでにない事業案を提案**
- 行政職員も検討過程に加わり、関連分野の**最新の動向や制度を踏まえ**ることで、**社会実装の可能性を向上**
- 生み出されたアイデアは、**既存事業の見直しや加速化、新規事業のアクセントとしても活用**